

2020年8月5日

3密防止対策と経営に関する アンケート調査

令和2年7月16日～7月31日

会員数	172施設
回答数	62施設
回答率	36%

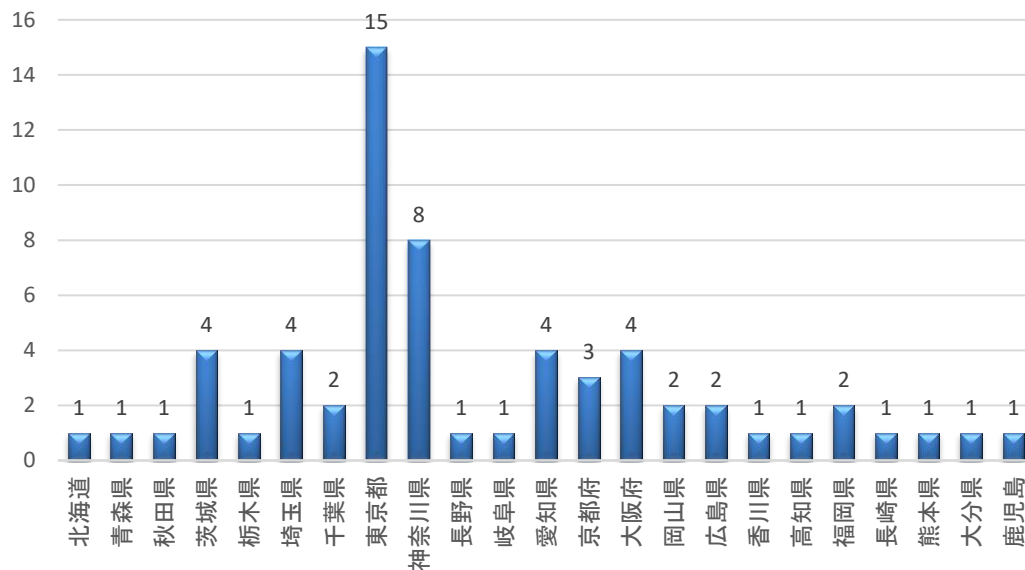


日本人間ドック健診協会

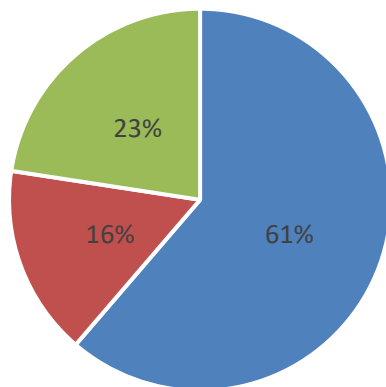
Japan Association of Ningen Dock Kenshin

◆都道府県別回答施設

北海道	1	東京都	15	広島県	2
青森県	1	神奈川県	8	香川県	1
秋田県	1	長野県	1	高知県	1
茨城県	4	岐阜県	1	福岡県	2
栃木県	1	愛知県	4	長崎県	1
埼玉県	4	京都府	3	熊本県	1
千葉県	2	大阪府	4	大分県	1
		岡山県	2	鹿児島県	1



◆緊急事態宣言中の対応



期間中ほぼ休止	38
期間中短期間休止	10
休止しなかった	14

■ 期間中ほぼ休止 ■ 期間中短期間休止 ■ 休止しなかった

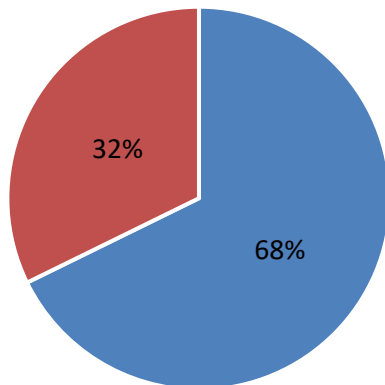


日本人間ドック健診協会

Japan Association of Ningen Dock Kenshin

◆ 経営母体、開設形態、賃貸料支払

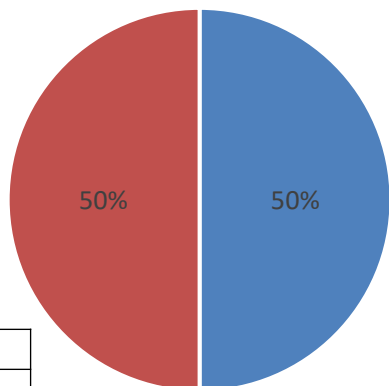
経営母体



公的	42
私的	20

■ 公的 ■ 私的

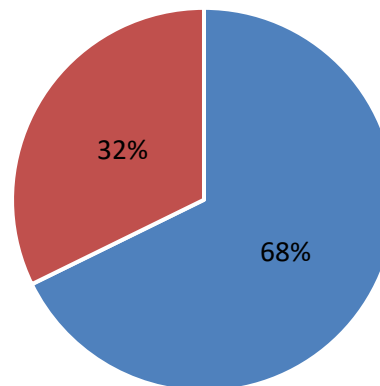
開設形態



健診単独型	31
病院併設型	31

■ 健診単独型 ■ 病院併設型

賃貸料支払



家賃有り	42
家賃無し	20

■ 家賃有り ■ 家賃無し



◆施設内でのソーシャルディスタンスを保つための実施策①

<受付>

飛沫感染対策
受付前にスクリーニングをして一気に入館しないようにする
待合椅子をソファからひとり用に変更
受付人数の制限 間隔の確保し受付
順番待ち位置の床面表示
窓口縮小
待合の椅子を一人ずつ間隔をあけて座るよう設置
受付に行く前のコロナ問診、検温を実施
待合椅子を間引いた。外廊下に並んでいた。席数を少なくし、受付後、直ぐに健診フロアに案内した。
パーテーション設置
受付時間毎の人数を減らす
シールド、マスク、消毒
受付カウンターの椅子を減らす
基本的に保たれている
受付前の待合場所の確保

<待合>

ビニールシート、また一つ空きに座る形で感染対策
席数を減らし、席の間隔をあける
待合椅子をソファからひとり用に変更。一部3人掛けソファも使用しているが、一つ空けて座っている。
待合室を開放的なエントランスに変更
窓の換気。扇風機の活用
健診室への呼び込みの人数制限
席の空間を取り、指定席にした。
入口の床に立ち位置を貼りつける
シールド、マスク、消毒
アクリル板設置
受付予定時間より早めの来館者は別室待合フロアに案内し、密を避けている。
ソファの向きを一方方向に変更
一人掛椅子の配置等
ポスター掲示



◆施設内でのソーシャルディスタンスを保つための実施策②

＜心電図室＞

- ビニールシート
- 実施する部屋を増やす
- パーテーションを設置
- ディスポのロールシートにて対応、機器は清拭で消毒
- 1人単位での消毒、清掃
- 呼び出しの間隔を空ける
- 防護対策 マスク ゴーグル 手袋
- 高層ビルのテナントであり、各検査室には窓がないためにウィルス対応の空気清浄機等を設置
- 測定時に一定距離を保り、向き合わないよう工夫
- 待合椅子を間引く、席の間隔
- ドアを開け、カーテンでの遮断をし、換気
- 使い捨ての電極を使用
- 一人ずつ検査室(個室)へ案内している(従来通り)
- 案内人数の制限
- ドアでなくカーテンで換気
- ベットシートや枕カバーを外し、検査都度アルコール消毒
- 検査室への受診者の呼び入れ人数を制限
- サーキュレーター設置
- 検査ベットは2つあるが、カーテンでの仕切り

＜放射線室＞

- 受診者が接触する部分の消毒、紙コップなどの廃棄物処理
- 受診者同士が接することがないように呼び出しの間隔を空ける
- 操作側の通路窓の換気をした。
- 予約制限
- 高層ビルのテナントであり、各検査室には窓がないためにウィルス対応の空気清浄機等を設置。
- 受診者毎の検査機器の消毒、清掃、定期的な換気
- 待つ座る位置の間隔を空ける
- 一人ずつ検査室(個室)へ案内している(従来通り)。
- ゴーグルかフェイスシールド、マスク
- 検査室への受診者の呼び入れ人数を制限している
- サーキュレータを使用
- 対面にならないようにする



◆施設内でのソーシャルディスタンスを保つための実施策③

＜内視鏡室＞

内視鏡学会の感染防止策準拠
人数制限
機器に飛沫防止シートと医療従事者は前身を防護で対策
健診者数を半分
受診者同士が接することがないように呼び出しの間隔を空ける
防護対策(マスク ゴーグル ガウン 清掃)
検査数調整、検査終了後一定時間換気の実施
今年度は内視鏡検査をすべて中止
検査側の窓を開け、空気清浄機を設置し、換気
経鼻主体で内視鏡実施、受診者マスク着用
蜜になる中待ちを中止し、間隔を空けた待合室で待っている
受診者ごとにアルコール消毒
単独案内の為、特になし(別途、前処置室はカーテンレール設置)
前処置室、検査室の入室時に受診者が交差しないようにする
検査前の椅子の間隔をあける
待合椅子や回復室のレイアウトの検討
ポスター掲示
各席の間はパーテーションで仕切り
ビニールカーテンの設置、サーキュレータを使用



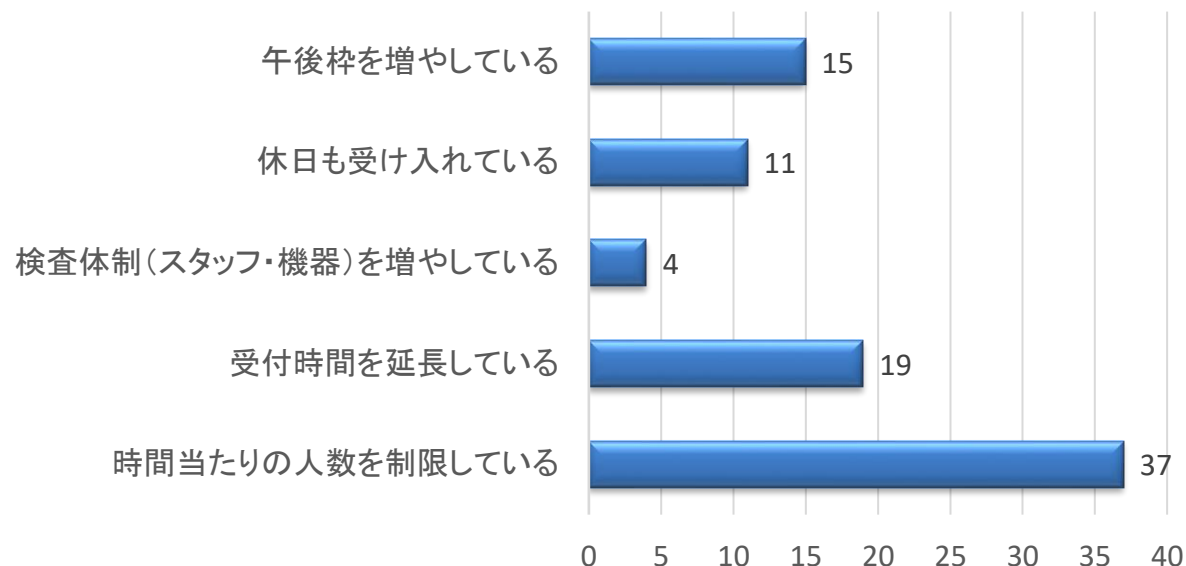
◆施設内でのソーシャルディスタンスを保つための実施策④

<その他>

エコー室は、飛沫対策用クロスの設置
マスク着用・フェイスシールド・手指消毒・機器消毒・飛沫防止シート等
食事テーブルを1席あげて時間差で食事
更衣室も一度に入る数を制限
受診者数の抑制
高層ビルのテナントであり、各検査室には窓がないためにウィルス対応の空気清浄機等を設置
確認書の記入
検温、時間ごとの消毒
診察室、エコー検査の入り口にカーテンを設置し、ドア開放し、換気
一部ZOOM利用による遠隔結果説明実施
マスクは、全職員・健診者・患者ともに着用必須
臨時待合スペースを設置
エスコート担当者による密にならない案内の実施
入口を開放し、常時換気
各室ともスペース的には限界があるため、受診者入室時の手指衛生と環境上の清拭を徹底
来院者全員に検温、マスク着用を徹底
受診者用食堂を閉鎖し、持ち帰り弁当へ変更。人数制限し、健診時間を短縮
診察室 シールド、マスク、消毒
カウンター前に白線を引きソーシャルディスタンスの確保・フロア外に第二待合室を新設し入室制限実施
検温、時間ごとの消毒
食事をする場所は1席ずつ囲いを設置
検査順を一定にせず、偏りがなくなり密の回避ができスムーズな流れで検査ができるよう変更
受診開始時間を遅らせる



◆受診者同士の接触を防ぐためにとられている対策



(その他)

- ・間仕切り設置
- ・午前中を2部制に分け、受診者数を少なくする
- ・土曜営業の拡大
- ・来院での現地予約を中止し、電話予約を依頼
- ・閲覧雑誌の撤去
- ・検査の待合廊下席は間隔をあける、向きに配慮した設置、間隔をあけて着席いただくよう掲示
- ・別の場所を利用して3密回避
- ・予約時間を変え混雑が起きないようにしている

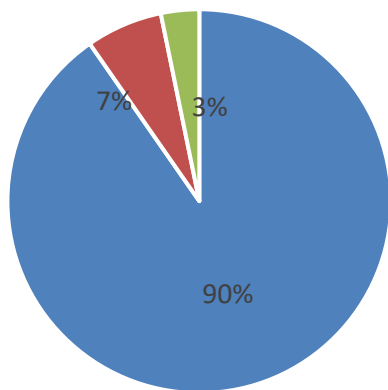


日本人間ドック健診協会

Japan Association of Ningen Dock Kenshin

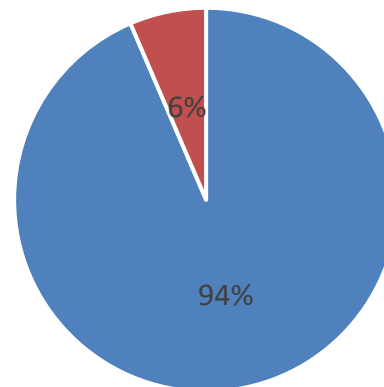
◆職員間での感染防止対策

共有エリアの消毒



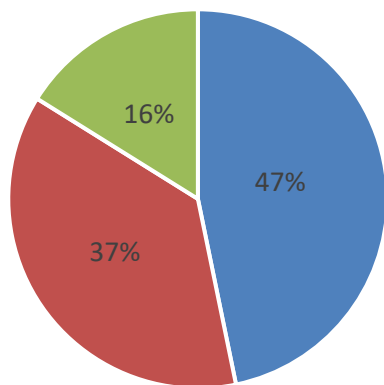
- 定期的に実施
- 時々実施
- 実施していない

就業中のマスクの着用



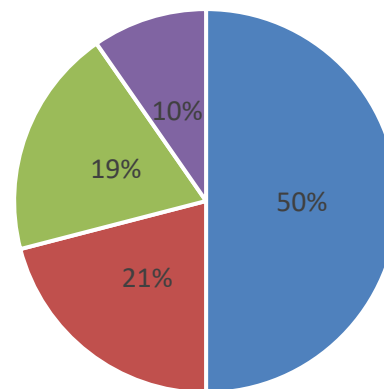
- 就業時間中は必ず着用
- 健診業務中のみ着用

休憩中食事時のマスクのない状態での会話



- 個人に一任
- 禁止
- できるだけ規制

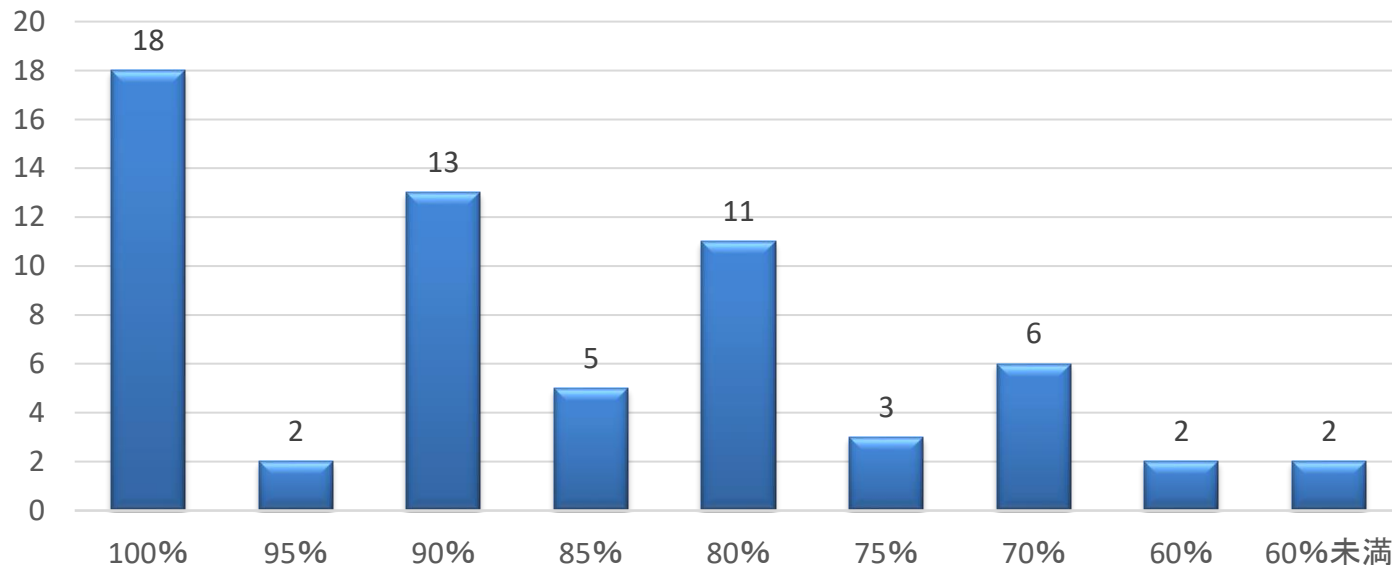
職員間での会食



- 控える
- 禁止
- 個人に一任
- 条件により禁止

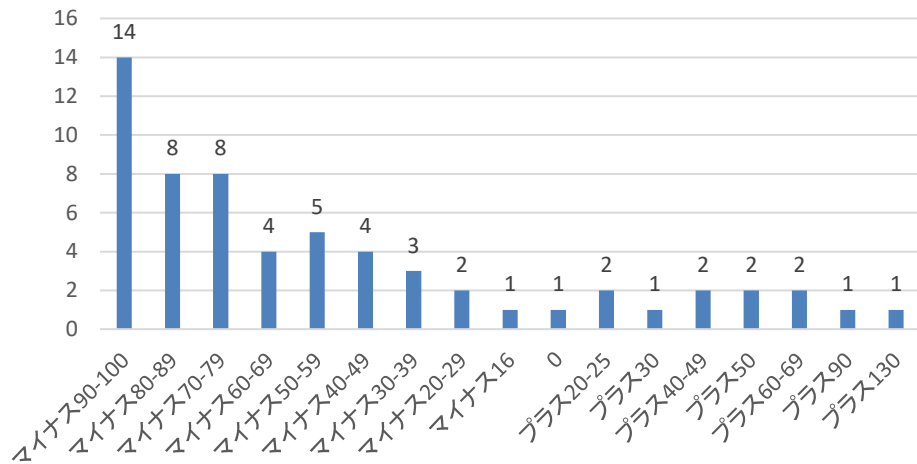


◆3密防止対策を万全に実施した場合、従来の1日を100%としたとき、何%の受診者数の受け入れが可能ですか

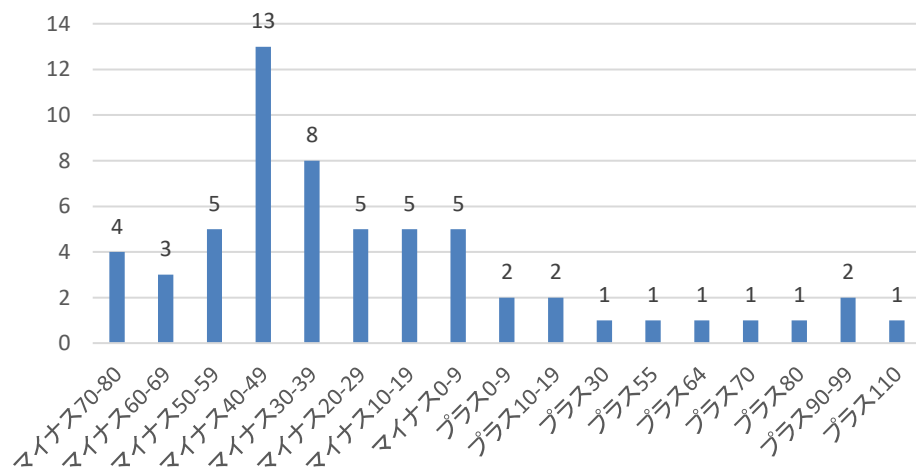


◆2020年5月、6月、7月の健診収入の対前年比(%)

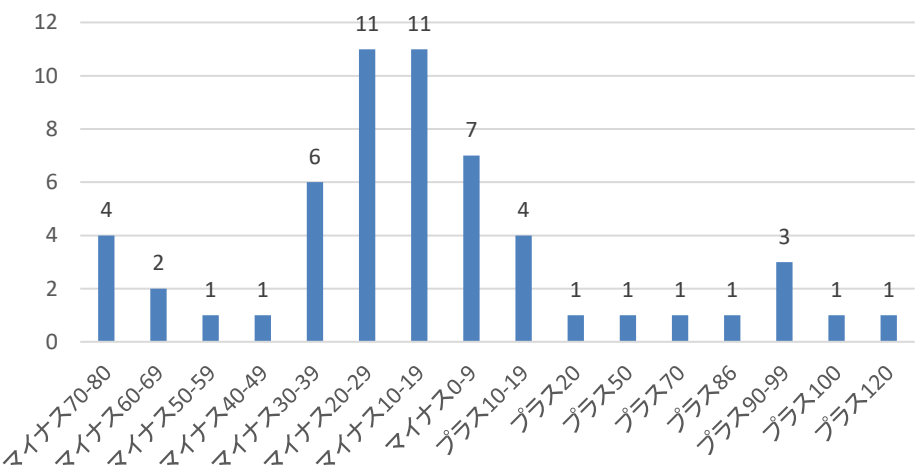
5月



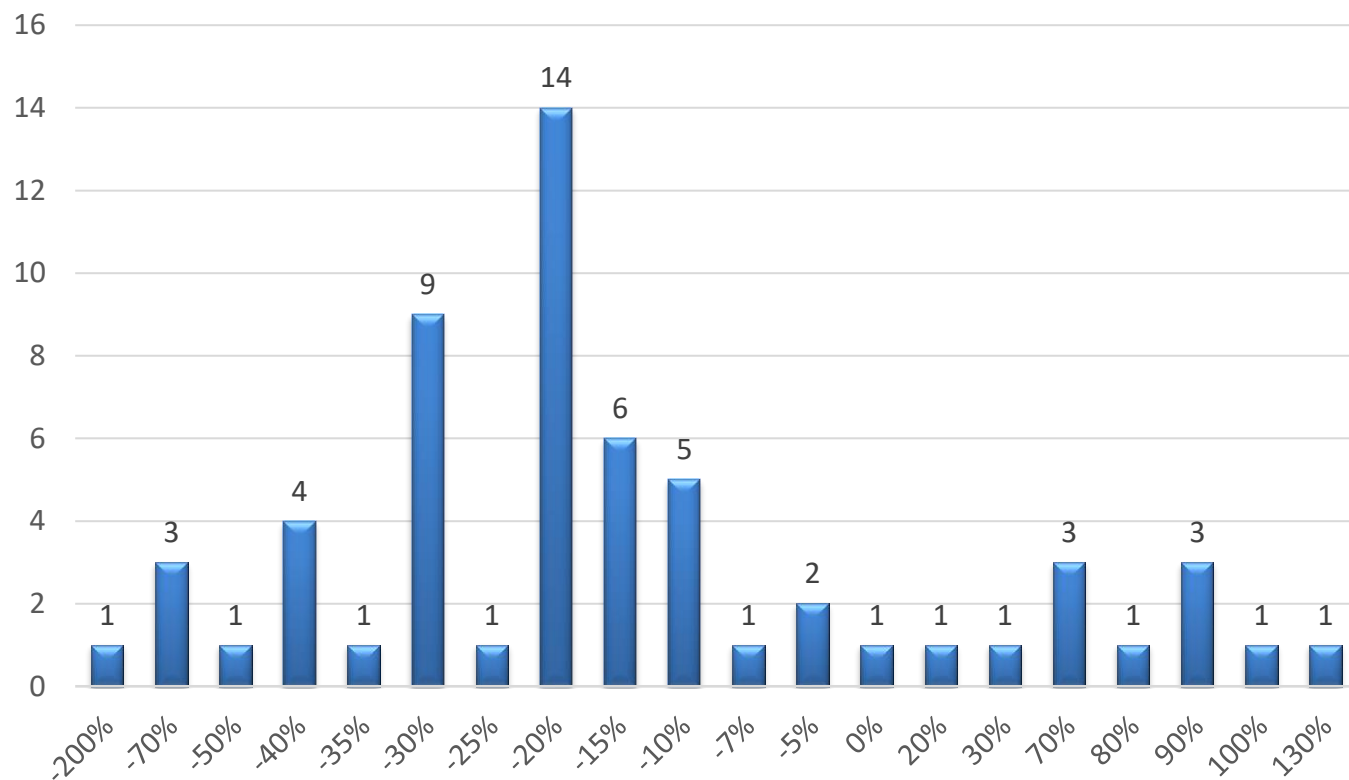
6月



7月

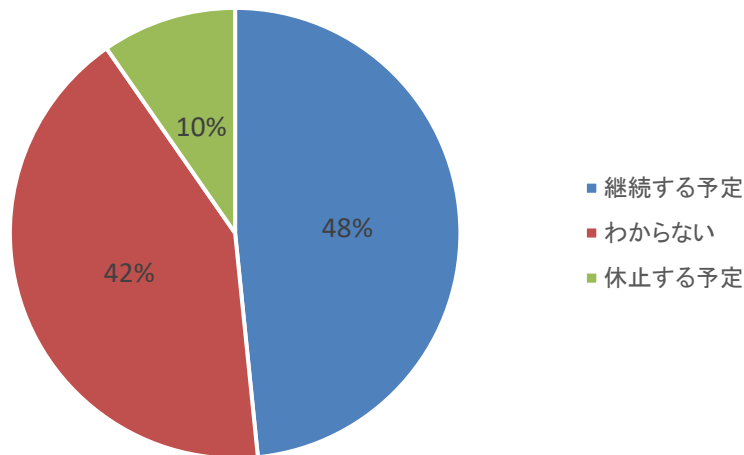


◆今年度(2020年4月～2020年3月)の健診収入の対前年比の予想



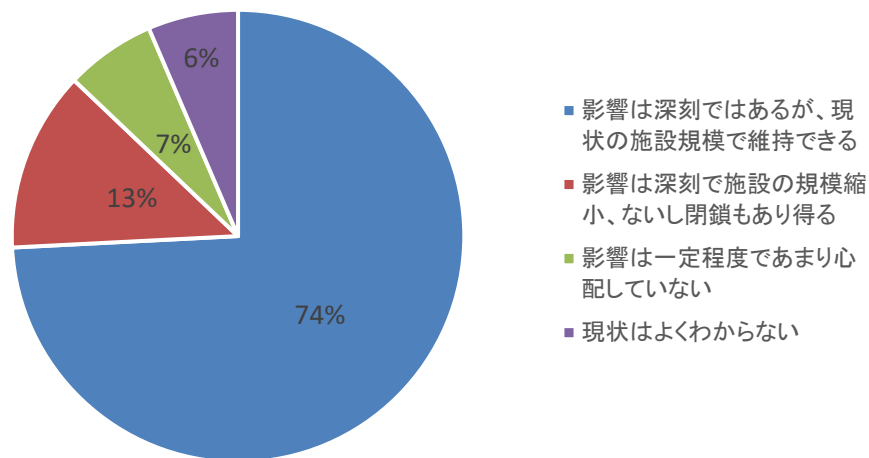
◆ 今後、緊急事態宣言が再発出された際の健診事業について

継続する予定	30
わからない	26
休止する予定	6



◆ 長期的な経営見通しについてどのようにお考えですか

影響は深刻ではあるが、現状の施設規模で維持できる	46
影響は深刻で施設の規模縮小、ないし閉鎖もあり得る	8
影響は一定程度でありあまり心配していない	4
現状はよくわからない	4



◆AfterCoronaの健診事業はどのように変化していくとお考えですか①

- ・必要ない検査の削除など、項目の見直し
- ・一時期に受診する人が増えるので、季節変動が大きくなる
- ・密を避けるために午後の健診(ドック)が増える
- ・肺機能検査等の健診項目の見直しは必要
これからの在宅ワーク者向けの健診コースがあっても良いと思う
- ・保健指導等はズーム等を使用するようになり、健診者との接触も最小限となる
- ・健診事業は予防医療の観念から必要。対策をしながら共存していくしかない
- ・待合い時間の短縮と質、保健指導体制の在り方。オンライン化
- ・検査項目の見直し、医師結果説明、生活指導が難しくなる
- ・予約時間枠の拡大による分散で現状維持
- ・ますます重要なものになる
- ・ワクチンが一般的に供給されるまでは不安定な事業運営が不可避
- ・受診者一人一人に対し丁寧で、ゆとりのある上質な内容の健診に変化していくとよい
- ・終息したとしても新しい生活様式が定着していると思われるので、受診者数の制限はやむを得ない
一人当たりの健診単価を上げ、経費削減に努めるしかない
- ・コロナ対策をしながら、健診事業は続けていくしかない
- ・スタンダードな感染対策は継続 ソーシャルディスタンスを強化すると健診費用の変更
- ・ソーシャルディスタンスを保ちながら、密を避けた受診者受け入れとなる
一般健診などの低価格な健診は受け入れることが難しくなる
国や自治体からの資金的な支援がないと、今後の経営は厳しくなりそうだ
- ・ここ2-3年は特に変化なし



◆AfterCoronaの健診事業はどのように変化していくとお考えですか②

- ・AfterCoronaは一時的であり、ワクチン開発により従来通りになる
- ・医療機関受診は、健常人にとってはリスクあると考えられ、今後数年間受診控えが続くと予想される。安全で安心して受診できる施設が選ばれる
- ・健診時間の短縮、不要な検査の排除
- ・施設滞在時間の短縮化、食事サービスなし等
- ・受入れ時間の拡大
- ・早期発見、早期治療の観点から必要性は変わらない。受診控えが懸念材料
- ・感染予防を徹底した上で、事業継続していく
- ・血液検査等非来院型の検査が増える。長期的に感染防止策の遂行が求められる
- ・Web、ICT等を活用した健診に移行
- ・スタンダードな感染対策は継続 ソーシャルディスタンスを強化すると健診費用の変更
- ・コロナ感染を心配する方がいる一方、定期的な健診を受けたい層も存在する。オンライン等の活用で院内滞在時間の少ない健診需要の拡大が見込まれる
- ・非接触型の健診と3密防止対策としてコンパクト設計によるスピードアップが求められる
- ・オンラインの普及
- ・受診者への説明、指導などは対面形式からオンラインへ移行する

◆地元自治体からの経営支援等

(東京都)

持続化給付金、雇用調整助成金、各種給付金(家賃、医療従事者等)

(愛知県)

事業継続応援金10万円

(神奈川県)

持続化給付金、感染防止対策交付金



日本人間ドック健診協会

Japan Association of Ningen Dock Kenshin